

<フィリピン事業> 「タール火山噴火による災害前よりも強い地域を目指して」



ICAN マニラ事務所
福田 浩之
～プロフィール～
フィリピン大学修士
課程、ICANマニラ事務
所インターンを経て、
2013年4月に入職。
社会福祉士。

ある日のスケジュール

- 8:00 ミーティング
- 9:00 事業地に移動
- 11:00 学校側と協議
- 13:00 修復作業のモニタリング
- 15:00 教育省との協議
- 16:00 車中で事業進捗報告書の作成
- 18:00 業務終了
- 19:00 帰宅

2020年1月、タール火山噴火によって被災した住民の命を繋ぐために、アイキャンは救援物資の提供を実施してきました。3月頃には、火山付近で暮らしていた住民の多くが、各自宅に戻ることができましたが、本災害により学校校舎も大きく損壊していることが分かりました。被災地域の町では、合計84教室が損壊しており、子どもたちは授業に適していない狭く密閉した場所や、教室外で授業を受けざるを得ない状況に置かれていました。また、多くの住民は家畜業や漁業に従事していましたが、本災害により家畜が死んでしまったり、漁業用のボートが壊れてしまったりと、一部の人びとは仕事を失ってしまいました。その影響で、毎日の通学費や昼食代を捻出することができなくなり、通学を断念せざるを得ない子どもがいました。

そのため、アイキャンでは被災者を一時的に雇用して損壊した校舎の修復だけでなく、被災者のキャッシュ・フォー・ワーク（被災者を一時的に雇用し、賃金を支払う）も実施しました。本事業では、「災害前よりも強い地域」への復興のために、「校舎の構造上の強化」と「住民同士の関係性の強化」を意識しました。まず、労働者とともに校舎損壊の原因究明をし、屋根を支える骨組みと屋根付近の隙間の脆弱性が主な原因だと突き止めました。その構造上の課題を解決するため、骨組みをより多く設置し火山灰が侵入できないように、屋根と壁の繋ぎ部分の隙間をなくし封鎖する構造に変更しました。また、住民同士の関係構築を目的として、休憩時間には教師も交えて労働者と雑談する時間も意識的に設けました。その何気ない会話の中で、本災害によって損壊した自宅の問題を労働者に相談するシングルマザー（キャッシュ・フォー・ワークに参加した女性労働者）の姿がありました。さらに、修復が完成した学校では、校長先生が本事業の労働者に追加で学校設備の修復を依頼していました。その様子は、本事業を通して住民同士の関係性が強くなり、地域内の災害への対応力が高まったことを表していると思います。



ある労働者は、「この学校は私の子どもが通っているから、また災害が起きても、絶対に壊れない丈夫な校舎に修復する」と語ってくれました。私たちは、労働者とともに悩みながら修復を進め、住民と雑談する時間を大切に、地域の中で住民間の関係性を築いていくことが、「災害前よりも強い地域」への復興に繋がると信じています。8月に始まった被災地の学校校舎復旧事業は9月現在、修復を残す教室は9教室です。子どもたちが安心して勉強できる場所を確保するために、今後とも住民の方々とともに一歩ずつ復興に向けて歩んでいきます。

フィリピン事業

9月/トンド（フィリピン）

トンド地区 25世帯へ食糧と衛生用品を提供



COVID-19感染拡大の影響で生活が困窮した、マニラ市トンド地区の25世帯に、お米、缶詰、鶏肉、卵などの食糧品と、子ども用サイズを含むマスク、アルコール消毒液などの衛生用品を提供しました。

トンド地区に住む母親は、「子どもに合うサイズのマスクがなく困っていました。提供してくれてありがとうございます」と話してくれました。

ジブチ事業

9月/ホルホル・アリアデ（ジブチ）

訪問型の子どもたちの広場が各家庭を巡回



ジブチのホルホル・アリアデ難民キャンプでは、感染防止策のため、2名の難民スタッフが週2～3回各家庭を回り、訪問型の「子どもたちの広場」を実施しています。子どもたちは家の前や近くの空きスペースでお絵かきなどの活動を楽しみました。7才の女の子から「アイキャンの遊び道具を使えるのが楽しい。兄弟姉妹も喜んでいきます」と声がありました。

ボランティア・寄付推進事業（街頭募金）

9月/名古屋（日本）

街頭募金に関する意見交換会



街頭募金にご参加頂いているWECANのみなさん、聖霊高校のボランティアの方と募金活動をより良くするため、オンラインで意見交換を行いました。「気軽に募金できる空気を作るため少人数で呼びかける」「事前オリエンテーション

ョンに最新の活動報告を追加して、毎回参加者に新しい情報を提供してはどうか」という改善へ積極的なご意見を頂きました。

ボランティア・寄付推進事業（広報）

9月14日-18日/日本

SNSでイエメンを知る「イエメンウィーク」を実施中



9月14～18日の間、アイキャンSNS上で紛争下イエメンの様子を特集する「イエメンウィーク」を実施しました。「紛争が激化して以来、給与が支払われていない」と話すイエメン教師の方のインタビュー動画など、紛争地のリアルが伝わる短めの動画を投稿しています。身近に社会課題を知る機会を提供して参ります。フォロー、いいね！をお願いします。